

茶病虫害防除情報

【第 4 号】

令和 4 年 4 月 28 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

良質夏茶の安定生産に向けた

一番茶後の病虫害防除対策

今年もコナカイムシ流行が持続する中で、気候的には恵まれて概ね平年並みの生産となりました。一番茶の生産も早場産地で終盤になり、遅場産地では最盛期を迎えました。今年は肥料、燃料の高騰など生産資材費上昇の厳しい条件での生産になりましたが、皆様の努力・工夫で良質茶の生産がすすめられました。間もなくゴールデンウィーク連休となりますが、茶業関係の皆様には最も繁忙期で本当にご苦労様です。今回は一番茶後の病虫害対策についてお知らせします。

◎ 病虫害の発生概要

一番茶期は今年も病虫害の発生被害は殆どみられないようでした。しかし気温が上がり、病原菌や害虫の活動も活発になり、発生が多くなる時期になりました。

ハマキムシ類は最近やや多くなってきています。病虫害防除所の 5 月の発生予察情報では、第 1 世代の発生量はチャノカケモンハマキ「やや少」、チャハマキ「やや多」、発生時期は「並」の予報です。いずれの産地も刈番茶の摘採後頃がふ化～若齢幼虫発生期で、防除の適期になります。

カンザワハダニの発生は一番茶前まではやや多発生に経過し、その後一番茶期は比較的晴天日が続いたためさらに発生増加が懸念されましたが発生・被害は少ない状況のようです。県病虫害防除所の発生予察情報では「並」となっています。例年一番茶摘採後の今頃からが発生ピークになり、その後減少していきますので、しばらく発生に注意が必要です。

サビダニ類はこの数年多発生が続いていましたが、4 月下旬の調査では発生は少ない状況でした。これから晴天が続くと発生が多くなる恐れもありますのでしばらく注意が必要です。

発生が拡大しているチャトゲコジラミは県内の殆どの産地で寄生がみられており、一部地域の茶園では煤病発生を伴っています。4 月中下旬の調査では、かなりの園で成虫が一番茶新芽に群生・乱舞する状況で、病虫害防除所でも防除に関する留意事項としています。成虫の発生が多く確認されている地域、園では一番茶後の防除に努めてください。

◎ 基本的防除対策

① ハマキムシ類の防除法（補完・臨機防除）

ハマキコン N 使用園は防除の必要はありません。ハマキ天敵利用防除園や薬剤防除園では出来れば地域のフェロモントラップによる予察情報を活用し、発蛾最盛日 16～22 日後に防除します。防除適期の予想は早場産地が 5 月 1～3 半旬、中間・遅場産地が 5 月 2～4 半旬頃になると思われませんが刈番茶摘採後頃を目処にしてください。

② カンザワハダニの防除法（補完・臨機防除）

一番茶摘採後 5 月上中旬頃が発生のピークになりますので、発生が多い園では刈番茶摘採後早目に防除します。天敵（カブリダニ類など）の働きが活発になる時期であるため天敵に影響の少ない薬剤を選びましょう。なお、発生は天敵の活動と梅雨の影響で 5 月中～下旬頃

には自然に減少しますので5月中旬以降の防除は必要ありません。

③ サビダニ類の防除法（臨機防除）

一番茶摘採後頃に急増し、摘採残葉の褐変黄化・萎縮・落葉などの被害を生じることがあります。茶園が黄褐色化するなどで発生に気づいたら早めに防除します。通常はカザワダニと同時防除できますが、発生が多い場合は専用剤での防除が望ましいです。

④ チャトゲコナジラミの防除法（補完防除）

一番茶摘採期頃に成虫が発生し、5月上～中旬頃が防除適期である若齢幼虫発生期になります。クシカイヤラムシの防除適期であるふ化最盛期と発生が概ね同調しますので、同時防除を狙った防除が可能です。裾葉・葉裏に十分薬液がかかるように散布します。

表 一番茶後の病害虫防除法

病害虫名	防除薬剤	希釈倍数	使用基準	使用上の留意事項
チャノコカクモンハマキ チャハマキ	ハマキ天敵	1000～2000倍	前日 ー	・ふ化～2 齢迄の若齢期で、フェロモントラップの発蛾最盛期 16～22 日後が散布適期である。 ・有機栽培に使用できる。
	チェーンアップ 顆粒水和剤	2000倍	前日 ー	・これら BT 剤は若齢幼虫期散布の効果が高い。 ・天敵への影響が少ない。 ・有機栽培、米国輸出茶栽培に使用できる。
	ゼンターリ 顆粒水和剤	1000倍	7日前 ー	
	デルフィン 顆粒水和剤	1000～2000倍	前日 ー	
	サブリンフロアブル	1000倍	7日前 ー	
	レピクリーン DF	500～1000倍	前日 ー	
	エクシレル SE	2000倍	7日前 1回	・ジアミド系薬剤(フェニックス・サムコル・エクシレル・テッパソ)は一部地域(枕崎)では感受性が低下しているの で、注意する。
	サムコルフロアブル	2000倍	3日前 1回	
	テッパソ液剤	1000倍	3日前 1回	
	スピノエースフロアブル	2000～4000倍	7日前 2回	
アフーム乳剤	1000～2000倍	7日前 1回		
アグリメック	1000倍	7日前 1回		
カンザワハダニ	ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回	・マイトコーネは遮光栽培では遮光開始 14 日前までに使用する。 ・同一系統薬剤の使用は年 1 回とする。
	ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回	
	マイトコーネフロアブル	1000倍	※14 日前 1回	
	スターマイトプラスフロアブル	1000倍	14 日前 1回	
	アグリメック	1000倍	7日前 1回	
	サンクリスタル乳剤	300～600倍	前日まで ー	・有機栽培に使用できる。
ミルバノック乳剤	1000倍	7日前 1回		
サビダニ類	サンマイトフロアブル	1000～2000倍	14 日前 2回	・有機栽培に使用できる。
	アグリメック	1000倍	7日前 1回	
	スターマイトプラスフロアブル	1000倍	14 日前 1回	
	サンクリスタル乳剤	300～600倍	前日まで ー	
チャトゲコナジラミ	ミルバノック乳剤	1000倍	7日前 1回	
	アプロートエースフロアブル	1000倍	14 日前 2回	・400L/10a 散布 ・クシカイヤラムシと同時防除可
アグリメック	1000倍	7日前 1回		

備考 ☆ ハマキ天敵との混用または近接散布(7～10 日以内)

可能な薬剤・・・サンマイト ヒラニカ ミルバノック マイトコーネ カネマイト ダニサラハ ダニグッター

避ける薬剤・・・スプライト ダースバン ハチハチ アグリメック アフームなどハマキ類防除薬剤



チャトゲコシラミ成虫蝻集状況



チャトゲコシラミ幼虫寄生状況



チャハマキ成虫 雌 雄



チャノコカクモンハマキ成虫 雌 雄



チャノコカクモンハマキ 卵塊



チャハマキ 激発被害園



チャノカサビダニ寄生状況



チャノカサビダニ被害葉